

シロイチモジヨトウの発生に注意しましょう

－適切な防除対策により被害を防ぎましょう－

1 発生状況等

シロイチモジヨトウは、ねぎ、にら、たまねぎ等のネギ属作物を好み、その他にもいちご、キャベツ、はくさい、レタス、ほうれんそう等の野菜類、だいず等の豆類、花き類にも被害を与える害虫です。特にねぎでは、虫ふんが葉身内の底部に堆積するため、商品価値が著しく損なわれます。

県内8か所（日光市、大田原市、さくら市、宇都宮市、足利市、栃木市、益子町）に設置したフェロモントラップのうち、3か所（宇都宮市、栃木市および足利市）でシロイチモジヨトウ成虫（写真1、2）が多く誘殺されました（図1）。また、本年度は誘殺数の増加が昨年度よりも早い傾向が認められました（図1）。

気象庁の1か月予報（令和8（2026）年7月16日発表）によると、今後1か月の平均気温は平年より高くなる見込みで、本種の増殖に適した気象条件となることが予測されます。今後、成虫の発生に注意し、適切に防除を行いましょう。

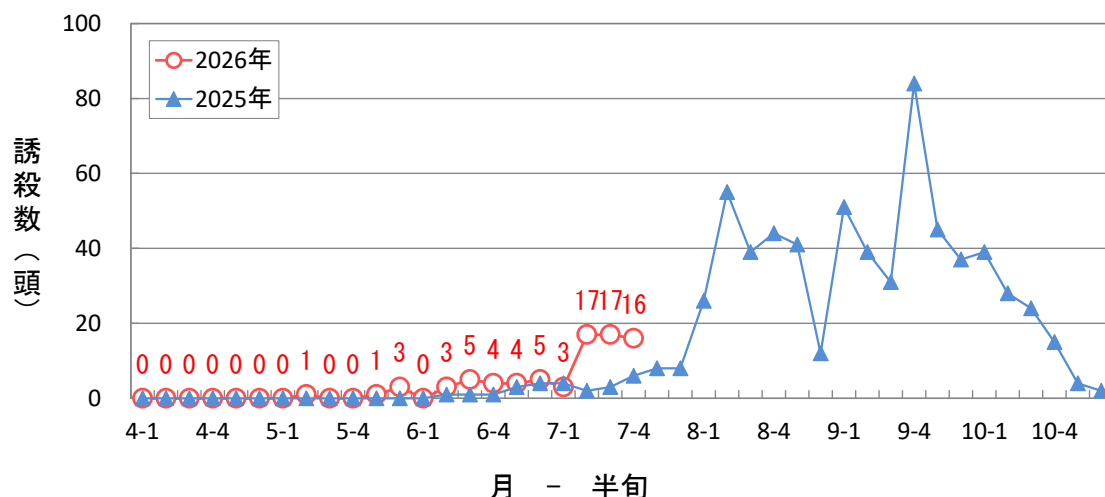


図1 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウ成虫の誘殺数推移（栃木市）

※ フェロモントラップ調査結果参照（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/boujo/yosatsu.html>）。

2 防除対策

- （1）ほ場周辺の雑草は増殖源となるため、除草を徹底する。
- （2）施設栽培では、開口部に防虫ネット（4mm目合い以下）を設置し、成虫の侵入を防止する。
- （3）卵塊や幼虫は見つけ次第捕殺する。
- （4）被害葉及び収穫残さは発生源となるため、一か所にまとめて表面をビニルで被覆する等、適切に処分する。
- （5）定植直後に食害を受けると生育が停滞し被害が大きくなるため、登録のある灌注剤や粒剤を定植時に使用する。
- （6）幼虫の齢期が進むと薬剤の防除効果が低下するため、定期的にはほ場を巡回し、若齢期での早期発見・早期防除を徹底する（薬剤については、[栃木県農作物等病害虫雑草防除指針](#)を参照）。
- （7）薬剤の葉への付着と浸透性を高めるため、機能性展着剤を活用する。薬害の発生を避けるため、使用方法をよく確認して適切に使用する。
- （8）薬剤抵抗性の発達を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

3 生態と形態的特徴

- (1) 卵は卵塊で産み付けられ、卵塊の表面はハスモンヨトウと同様に鱗毛で覆われる(写真3)。
- (2) ふ化直後の幼虫は集団で食害する(写真3)が、成長に伴い、付近の株に分散する。
- (3) 中・老齢幼虫は体側に白帯とピンク色の斑点を持つ個体が多い(写真4、5)。
- (4) ねぎでは、若齢幼虫は葉の表面を舐めるように食害する(写真6)。成長に伴い葉身内部に食入して内部から表皮を残して食害するため、葉が白化する(写真7)。

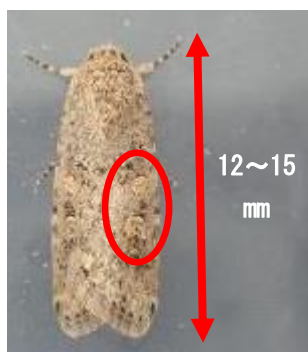


写真1、2 成虫とオレンジ色の円形斑紋(赤丸内)

写真3 卵塊とふ化幼虫(にら)



写真4 中齢幼虫(レタス)

写真5 老齢幼虫(ねぎ)

写真6、7 幼虫による被害葉(ねぎ)

詳細は、農業総合研究センター 防除課 (TEL 028-665-1244) までお問合せ下さい。
病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、
農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>)
でもご覧いただけます。

